

ただいま卒業証書を授与致しました140名の卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。コロナ禍の中 PTA 会長山崎裕広様、部活動後援会会長伊藤恵美子様のご臨席を賜り、第73回卒業証書授与式を挙行できますこと、大変嬉しく思っております。

保護者の皆さま、お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。立派に成長したお子様の姿をご覧になり、さぞ喜びもひとしおのこととご推察いたします。

入学時はまだあとけなさが残る小学校 7 年生といった姿で、大きな重い鞆を持ち、時には部活動の道具なども加わって、バス停まで向かう我が子を、自転車を雨の中漕いで行く後姿を、不安な思いで見送ったのではないのでしょうか。「自分で選んだ道なのだから頑張れ」と小さな声で我が子の後ろ姿に声をかけたこともあるでしょう。

子どもが幸せなこと、何かに夢中であってくれること、親の願いはただそれだけです。そして、お子様たちは保護者のその願いを受けて今日、立派に大人の階段を上り始めようとしています。

さて、卒業生の皆さん、皆さんが入学したのは2019年4月です。日常の時間はいつものように流れており、私たちは平穏な日々を当たり前のように享受しておりました。

その年の12月中国のある都市で新型のコロナウイルスが発生。そのウイルスは世界中を駆け巡り、多くの命を奪い、人々をパニックに陥れ、政治、経済、医療、教育も大混乱となりました。

そして、皆さんの貴重な青春の日々もコロナウイルスによってあっけなく変えられて

しまったのです。理不尽にも夢や希望を突然奪われたものの悲しみ。目指していた試合や大会、イベントが次々と消えていく虚しさ。友との語らいさえも許されない日々。ゴールのない毎日を皆さんは走り続けなければなりませんでした。2021年になり状況は少し回復したとはいえ、今までのようには活動できないもどかしさを感じ、答えを見つけれない納得のできない日々がそこにはあったと思います。

コロナを正しく恐れて果敢に挑む。本校はこの考えのもと校内の行事は中止になったものもありましたが、規模を縮小したり、時間を短縮したり、ずいぶん工夫して予定通り実施されました。殊に建学祭や体育祭での皆さんのほじける笑顔、歓声、友と喜びを分かち合う姿を見て、私自身がほっとしたことを覚えています。奈良の修学旅行も実施され良い思い出もできたことでしょう。

コロナは多くのものを皆さんから奪いましたが、皆さんはこれまで得ることができなかったもの、感じるができなかったものを手にすることができたように思います。

嘆いてばかりではだめです。コロナ禍であったからこそ手にできたものを大切に、前進しなければなりません。普通に時間が流れる日常の大切さ、行きたいところに行き、会いたい人に会い、食べたいものを食べ、見たいものを見る。自由に物事を考え、自由に行動することの素晴らしさ。仲間がいることの喜び。これらのことがいかに大切であるかコロナは強烈に私たちに教えてくれました。

同時にコロナ禍における人々の献身的な努力や人へのやさしさ。制限され、不自由な中でどのように工夫し助け合っていけば、人々は幸福に暮らしていけるかということ

も私たちは学び手にしたはずです。混乱と不安の中、人間はどのような知恵と工夫でこの未曾有の危機を乗り越えようとしたのかをしっかりと見つめ、伝え、より良い世界を作ることを提言すること。これが、コロナ禍の時間をリアルタイムで生きている皆さんの果たすべき使命でもあります。

そして、今、世界はコロナと同時に大きな不幸に見舞われています。ある大国が「自国の利益を守る」という大義名分のもとに、小国に侵攻し人々の平和な生活を奪い、命を奪い、領土を奪おうとしている現実があります。連日報道される国を追われていく人々の嘆きと絶望。爆撃の恐怖に怯え慄く幼子の姿。胸が締め付けられる思いです。私たちが守らなければならないものは、自由、平等、平和です。この3つのことが成り立って、初めて幸福は訪れます。皆さんには自由で平等で平和な社会を作るという大きな責任があります。どうかその自覚をもって幸福な社会を作るために頭にも心にも体にも汗を流してください。

さて、大多数の生徒が進む静岡翔洋高校ですが、静岡県の私学の70%、公立高校の55%の学校が定員割れをおこす少子化の中、昨年につき、今年も500名を超える入学者を迎え12クラスでのスタートとなります。多くの公立中学出身の生徒と競っていかなければならない皆さんですが、恐れることはありません。皆さんの先輩達は立派に勉強面でも部活動の面でも静岡翔洋高校の中心となっています。中部出身者としてのプライドを持ち、どうか学校を引っ張って行ってください。そして、他校へ進む生徒の皆さんも、文武両面にわたって活躍し、充実した悔いのない青春の

日々を送ってほしいと思います。

静岡翔洋からは永遠の姿をとどめる美しい富士が見えます。永遠にそびえ立つ富士のように皆さんの仲間と培ってきた友情もいつまでも続くことでしょう。

どうか翔洋生らしく雄々しく、自らの抱く希望に向かって歩みを進めてください。希望こそ生きる原動力です。素晴らしい人生の「門出」となることを祈念致しまして、「告辞」といたします。

卒業おめでとう。